

「日米同盟」とは何か

川戸れい子 (会員)

日米両首脳、安倍総理とトランプ大統領は事あるごとに「日米同盟は最重要」、「いよいよ強固に」と繰り返す。だがそもそも日米同盟とは何だろう。

「同盟」の歴史は古い。否、歴史以前からあると言える。国際法の概念が確立されるより遙か昔にも、国と国、集団と集団の間の約束事はあった。例えば『ハンザ同盟』。

『ハンザ』などという大時代なものを持ち出してきたのには理由がある。普通「同盟」と呼んでいるものには2つのタイプがあるからだ。その一つが複数の主権を持つ都市（国家に準ずる）が『ハンザ』という同じ組織に加盟することによって、相互に同盟関係となる場合で、今日で言えば EU や NATO 加盟国相互の関係である。

もう一つは通常2国間で結ばれる同盟で、互いの権益を守ったり、安全を保障するものだ。日米同盟の基盤となっているのは「日本国とアメリカ合衆国との間の相互協力及び安全保障条約（日米安保条約）」とそれを補完する「日本国とアメリカ合衆国との間の相互協力及び安全保障条約第六条に基づく施設及び区域並びに日本国における合衆国軍隊の地位に関する協定（日米地位協定）」である。

実はこの稿の執筆を決めた後で、とんでもない本を見つけてしまった。山本章子著『日米地位協定—在日米軍と「同盟」の70年—』（中公新書）。ぴったり過ぎで、下手をすると「本の紹介」か剽窃^{ひようせつ}になってしまう。だから敢えて主観的に書いていただきます。くことにする。

皆さんは「日米安保条約」の全文をご存じだろうか。悪名高い「日米地位協定」の方は？「地位協定」の方が「条約」本体よりずっと長い。我々は「地位協定」が悪いとか、「おもいやり予算が」とか言うが、全部読んでいる人はあまり多くないのではないか。どこに書いてあるのかと言えば、『条約集』なるものが刊行されている。例えば三省堂の『解説 条約集』。そんな本を一々探してられるか、という方はご一報を。コピーして差し上げます。

「条約」そのものを読んでもみると、至極まともに見える。問題は「地位協定」なのだ。このせいで米兵の犯罪を国内法で裁くことができず、

墜落事故があっても米軍の責任を問えない。そして戦闘機等の兵器を買わされ、膨大な「思いやり予算」を支出している。

今年、トランプ大統領が来日した際、安倍総理は大相撲に無理矢理特別席を設けさせるなど歓待にこれ努めた。だがトランプ氏の対応には拍子抜けしたようだ。さらに G20 大阪サミットでの記者会見で同氏は日米安保条約を「不公平とし、アメリカは日本を守っているのに日本はアメリカを守らない。だから今の 5 倍の費用負担をしろ」と言ったのだ（朝日新聞 7 月 15 日版を参照）。これには財務省関係者が「不可能に近い」と述べている。

その後日韓関係が悪化、韓国は日本との軍事情報包括保護協定を破棄すると通告。これに対しトランプ氏は「失望した」と繰り返すのみ。大体米軍がいなければこの協定自体存在していないはずだ。

辺野古の埋め立て反対を叫ぶのは良いが、「地位協定」がこのままではどうにもならない。山本章子氏が言う通り、「地位協定」は 1960 年から全く改定されていない。お得意の「運用」で拡大適用されてきた。「地位協定」破棄、少なくとも改定を求めるべきだ。そして「日米同盟」そのものを問いなおさねばならない。なにしろ総理さんは戦争が好きで、トランプさんはもっと好きなのだから。

トランプ氏はずいぶんグリーンランド買収構想までを持ち出した（中国が同島を狙っているらしいので）。この人は本当に戦争をしたいらしい。